

新博物館の基本理念

(1) 新博物館の目指す姿

「新博物館の目指す姿」とは

博物館の存在意義を社会に向けて意思表示するものであり、新博物館の整備やその後の活動における拠り所となるもの

現時点で検討中の「新博物館の目指す姿」の構成要素

①見出してつたえる「山形のいま」

時代とともに変わり得る「山形らしさ」を見出し、独自性や強みとして発展させることで、県民の郷土への誇りと愛着を育むとともに、県内全域の多彩な魅力を国内外に発信する

②集めてつなげる「山形のこれまで」

「母なる川」最上川や山々と海の豊かさと厳しさのもとで、先人たちが託した自然・歴史・文化の遺産を、県民の大切な宝として丁寧に集め、過去から現在、そして未来へとつなげる

③関わりあってつくる「山形のこれから」

本県の自然・歴史・文化の総合研究機関として、時代の変化に柔軟に対応し、県民とともに地域の新たな可能性を探求し続けることで、持続可能な地域社会を創造する

《キャッチフレーズの検討について》

新博物館の目指す姿を、より象徴的で分かりやすいキャッチフレーズとして掲げるための検討を進めており、基本構想の全項目を一通り検討した後、一貫した理念として設定する予定。

目的に応じて以下の2種類を分けて設定する方針とする。

- ① 広報を重視し、対外的に伝わりやすいもの
- ② 博物館の整備・運営の指針となり、内部で共有しやすいもの

(2) 新博物館の基本的性格

「新博物館の基本的性格」とは

「新博物館の目指す姿」を踏まえ、それを達成するためにどのような博物館であるべきか、そのあり方を示すもの

現時点で検討中の「新博物館の基本的性格」の構成要素

- ① 開館以来積み重ねられてきた自然科学（地学・植物・動物）、人文科学（考古・歴史・民俗・教育）の各分野における蓄積を総合的に捉え、変化する時代と社会に呼応して常に新しい知見や価値を生み出す総合博物館
- ② 子どもから大人まで、障がいのある方や外国人など、訪れるすべての人々に楽しみ、知的発見、驚き、癒しとくつろぎを提供する博物館
- ③ 地域に根差し、誇りと愛着をもって地域課題へと取り組み、新たな文化と価値を創造する未来志向の博物館
- ④ 県内の博物館や地域の様々な主体とつながり、地域の多彩な文化資源を共有・活用する創造的なネットワークの中核となる博物館
- ⑤ 本県の貴重な自然・歴史・文化の遺産を恒久的に持続可能なものとして収蔵するとともに、地域の伝統や文化を損失のリスクから守る文化財の保護・防災拠点となる博物館

今後も「新博物館の目指す姿」の修正や「新博物館の機能」等の他項目の議論の過程で、随時、整合性を見ながら内容をブラッシュアップ。

新博物館の機能の検討について（たたき台）

1 収集・保存

①次世代に伝える収集と保存

- ・ 散逸や滅失の危機にある山形の自然、歴史、文化を象徴する資料の記録、保全及び収集を行い、次世代に伝える基盤を築く。また、収集方針・基準（コレクションポリシー）を見直し、それによる収集活動に取り組む。
- ・ 文化財の所有者や地域住民と連携し、資料の保護への協力をはじめ、有形・無形を問わず、地域の貴重な文化財を次世代に伝える活動を推進する。
- ・ 収集資料を適切に保存できる収蔵スペースや必要な設備の確保に取り組む。一方で、収蔵スペースの確保は、多くの博物館に共通する課題であり現実的に限りがあることから、「持続可能な博物館」に向けて、学校の空き校舎をはじめ、公共機関が有するスペースの有効活用なども含め取り組んでいく。

②デジタル化・情報管理

- ・ 資料のデジタル化を進め、保存・検索の効率化を図るとともに、オンラインで資料情報を公開し、利用者のアクセスを容易にする。

2 調査・研究

①研究活動の充実

- ・ 山形の自然、歴史、文化資源をテーマにした調査活動を進め、質の高い展示・公開、教育・普及につながる研究を行い、博物館の質的向上の土台を築く。

②大学・研究機関等との連携

- ・ 地域の大学や研究機関等との連携を深め、効率的・効果的な研究ネットワークの形成を図る。

③県民との共同研究の推進

- ・ 県民参加型の調査活動として、学芸員がサポート役の共同研究に取り組む。

3 展示・公開

①誰にとっても訪れやすく、入りやすく、楽しく学ぶ展示環境の整備

- ・ 山形の自然・歴史・文化をテーマに五感を使って理解する体験型の展示など、来館者が能動的に学び、好奇心を刺激する「わくわくする」展示空間を作る。
- ・ 誰もが敷居の高くない入りやすい施設を目指し、インクルーシブな展示環境を整備し、年齢や言語、障がいの有無などを問わず、楽しめる展示を提供する。
- ・ 子ども向け展示の設置など、幼少期から博物館に馴染みやすい環境を整備する。

②広い視点を持つ展示構成

- ・ 観光客が本県の様々な魅力を感じるゲートウェイ・魅力発信拠点として、また、SDGsや地球規模の環境問題、防災など地域課題に対応するテーマ展示を行う。

③質の高い展示物の鑑賞機会の提供

- ・ 県内外の国宝・重要文化財などの優れた資料の展示に取組み、来館者が文化的な豊かさを実感できる場をつくる。

④デジタル空間を活用した展示公開の推進

- ・ デジタル技術を活用し、オンラインでの展示や公開を進め、利用者が資料にいつでも、どこからでもアクセスできるようにする。

4 教育・普及

①博学連携の充実

- ・ 学習指導要領、学習単元を踏まえた展示やプログラムと、アウトリーチを含む学芸員等博物館スタッフとの交流を通して子どもたちが学びやすい環境を提供する
- ・ 特別支援学校と連携し、視覚・聴覚・触覚等の多様な感覚を活かした学びの提供を図る。
- ・ 学習室（子ども学習室）の設置など、学びを支える空間づくりを検討する。

②多様な学びの提供

- ・ 生涯学習施設として、障がい者や高齢者も利用しやすく、誰もが主体的に学びやすい環境を提供する。
- ・ 講演会やワークショップなどを通して、県民と交流し、地域文化に対する理解を深め、博物館を「学びの場」として活用する機会を提供する。
- ・ アウトリーチ活動の強化、出前講座や資料貸出、オンラインプログラムを通して学びの機会を提供する。

③県民等の参加型の普及活動

- ・ 県民参加型のイベントや県民によるボランティアを通して県民の博物館活動への参画を促進するとともに、地域産業との連携を強化し、山形の文化や産業を発信するイベントや展示を行う。
- ・ 博物館の広報活動を強化し、地域メディアやSNS等を活用した積極的な発信など、より多くの県民や来館者に博物館の活動を知ってもらう。

5 その他

①様々な主体との連携、ネットワークの形成

- ・ 地域の博物館をはじめ、大学、研究機関、民間事業者など様々な主体との連携を図り、博物館スタッフの人材育成など、県内全体の博物館活動の活性化に資する。
- ・ 日常的に修復技術の向上を図るとともに、専門機関や関係機関と連携し、災害時に即応できる体制を整え、文化財の保護・救出活動において機能する拠点を目指す。
- ・ 大学等との連携を深め、効率的・効果的な研究ネットワークの形成を図る。（再掲）

②来館者の声を反映した運営改善

- ・ 来館者へのアンケートや意見交換の機会を設け、また、博物館の運営や活動の評価に県民の参画を得て、運営方法やサービスに柔軟に反映させる。

③附帯施設の検討

- ・ 来館者が山形の魅力を感じ、くつろげる空間を提供する附帯施設を検討する。

以上